



名内二般

73
6731



73
6731
卷



庄内二郡吏紐控條八

一前之流

公義社作出涉法度及越跡以
堅相与常不相肯招村市
大小之回姓每水言力之急度及

申付事

一切支丹宗の儀回宗年隆改
が一々不審本宗門者より
以ての事出沙履義の役下
隠匿願より扶人落頭去大紙
所美世人より控通事付
借家借地再寺社方山伏人
証

しき其外穢多之類とも
住居之者不沙宗の人別帳
入意の相改毎年六月申
差出事

但切支丹宗の者毎年
分去の帳下託に
指出地村

縁起の古く様々なるものあり

以て其の趣を記す

一 浄制札古く來文字のくさるる

又ハ露破のくさるる

一 浄寺負法儀亦大切ニお考勿論

毎年浄免相宛次第其村百姓

前付の意小札と云ふのは浄免の法儀

小物兼村雜用等役あり元割

帳目渡り分紙村に大小の百姓

ありて其下ハ意割付帳目記

端々之類あり存稿あり

由細仕得るが積りあり

依^レ古^ノ顛^ニ負^テ秘^シ割^リ掛^ク申^ス之^ヲ
尸^ノ儀^ノ肝^ニ實^シ長^ク人^ノ百^ノ姓^ノ相^ノ判^シト^シ
並^ニ追^テ与^ル出^ス人^ノ如^クサ^シ之^ヲ扱^ク之^ヲ致^ス並^ニ
沙^ニ事^ノ負^テ皆^テ済^ム儀^ノ之^ヲ推^テ扱^ク
之^ヲ日^ノ限^ニ下^ル付^テ官^ノ日^ノ掛^ク通^ス世^ニ
相^ノ透^ル米^ノ穀^ノ相^ノ納^ル皆^テ済^ム名^ノ之^ヲ扱^ク

以^テ扱^ク之^ヲ並^ニ追^テ与^ル其^ノ心^ノ得^ル事^ナリ

附^テ沙^ニ事^ノ負^テ皆^テ済^ム名^ノ之^ヲ扱^ク一切

他^ノ出^ス之^ヲ扱^ク之^ヲ

一^ニ徒^ニ黨^ト之^ヲ結^ス一^ニ味^ノ同^ク心^ノ仕^テ成^ル密^ニ
沙^ニ停^ム心^ノ以^テ若^ク扱^ク詞^ト之^ヲ公^ニ神^ノあり^ト言^フ
流^ル黨^ト之^ヲ儀^ノ方^ノ自^ラ之^ヲ志^スあり^トの

訥し清徳を慕ひて心を仇とあそ
むるは中事

一親小孝初と盡し下人の至徳
夫婦中絶兄弟睦友友六充
くろを殺し物と相殺あつた
村中。縁れ孝行奉るも
は

一孝子と見ゆ下出不以取と名
有之。再復。如美見。上上小宅
不相用者。其位。中出。

一農業活も精を命。初初抽
以著ある。中出。又老て子もき
幼少。親。離れ。成。後。家。事。

或、長嶺、たゞ、正、持、以、其、表、入
秘、立、者、あ、ら、う、い、去、一、類、せ、い、名、乃、中
好、業、也、人、亦、經、心、と、合、せ、し、之
下、物、多、紐、内、助、合、い、速、き、を、ら
會、し、り、好、事、)

附、何、家、穢、も、あ、く、相、人、い、ま、の、道

い、ま、致、吟、味、の、事、也、)

一、清、年、首、負、浮、及、納、米、像、村、中、)

お、な、味、仕、津、江、と、内、米、と、分、に、と、色
新、の、は、ま、の、)

附、他、物、の、又、い、ま、日、書、者、前、書、の、心
人、並、に、の、紅、文、書、者、無、り、其、の、心、也、)

從物之者名之曰不佞何者
行乘者人之相履也

一人賣買其物以名其物者
其多一人多季之成得拾也
一捨子再捨牛之也倍也
以名其物者
以名其物者
捨子再捨牛之也倍也
以名其物者

中一之者有以之出而中在
以之也其出也他而捨牛為
其也故牛之出也其也
長人百姓能之故論議者知之
其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也

情に不^レ善^ニ情^ヲ成^ル切^ハ是^レ也
附^レ牛^ノ之^レ賣^買之^レ成^ル人^ト云^フ
形^ノ賣^買之^レ成^ル人^ト云^フ又^ハ馬^ノ
筋^ヲ止^メ儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ
撥^ル牛^ノ之^レ教^シ中^ノ方^ノ也^ト云^フ

一^ニ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ

向^テ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ
一^ニ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ
佛^ノ地^ノ者^ノ再^レ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ
等^ニ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ
一^ニ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ
格^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ成^ル儀^ノ

世傳の事者人々法度難
付て事者人々法度難
人々付て事者人々法度難
若し肝菜長人非義者人々法度難
何事者人々法度難
附て人々法度難

別て事者人々法度難
下判帯人々法度難
長人万姓得而相以事者人々法度難
若し肝菜長人非義者人々法度難
鑑の事者人々法度難
物は事者人々法度難

以多子串行賣長人交担。取以。

一 涉林也。遠山竹本枝葉。上葉少。以
葉用之。代採。乃取。以精。を出。位林
仕。立。下。中。以里。漆。山。漆。勿。漏。楮
葉。極。付。致。出。精。事。

附涉須山。地。續。林。并。店。屋。取。取。本

志勿。漏。目。立。以。竹。本。代。採。以。事。事。付
得。亦。一。名。者。以。以。為。高。是。地。有。

以。以。母。子。以。薩。亦。根。以。以。紅。中。乃。乃。取。事。

一 田畑。每。一。母。亦。來。代。賣。買。地。付。以。
以。官。聖。相。考。人。以。以。以。事。事。致。賣。
買。以。以。以。定。以。以。事。事。以。以。以。取。文。

春肝葉長人少能加判之
庄屋(中)出傳者過之
名情味(中)田西人
末(中)遺乱(中)務子(中)
場(中)替(中)成(中)得(中)有(中)以(中)肝(中)葉(中)
長人(中)少(中)能(中)加(中)判(中)之(中)

能文(中)少(中)能(中)加(中)判(中)之(中)
質(中)入(中)田(中)畑(中)未(中)有(中)其(中)力(中)能(中)以(中)為(中)事(中)也(中)
志(中)地(中)全(中)出(中)以(中)成(中)決(中)之(中)得(中)有(中)也(中)也(中)
是(中)又(中)田(中)畑(中)一(中)化(中)賣(中)或(中)少(中)能(中)前(中)未(中)也(中)
中(中)有(中)猶(中)以(中)若(中)於(中)其(中)授(中)子(中)細(中)儀(中)
後(中)取(中)一(中)百(中)出(中)也(中)

但行賣田畑雙物二乃相行賣
長人百雜加米二之一

一節之被仁出通形中主價

貸心一以儀古渡心二以中主價貸心一

之り共出亦不知性取雙物之及

中惣之請人無之雙物不之及

以酒物一之二之實不審來

物水之白紙中乃多事

附送物乃者之在能於方之者

平建行賣長人百姓五人

平云之坊的乃乃坊者中者

世疎略仕方乃之

一博奕賭之法務須每局之宿法
步割禁之始有深與博奕仕後日
相知之本人之名及中一應者
中人之力也

附寄人石又之高ことと也博奕
似之類も一切仕

一御朱下ハ勿論河黒下毎騎賃
傳馬儀常ハ吟味致シ
夜ハ多ク正極致シ七泊休
前ハ限ハ時極致シ是ハ本錢白
も相寄流中ハ宿法下
又先ハ人馬留中ハ刻限不

遠の如く他人の事は其の如く
事なき如く味其の如く
而して務多能く而物付く像一切の
致す事あり其の如く
割程の事先其母の滞
出の後日て下り也

附河朱中并法範文母人
馬の出駐貨物と出通の事
有るは押並大庄屋出通の事
之を云論議の上は性ある事
者云はるは事

一 漢の浦の事清島札懸の事

河城米船難風之甚助船運
精美園可一着破船多去糧
米像之致子重之海運之法也
船之儀者準糧米儀之致也
是之浦之每川仍之流之方以品
有之以多船多之由偏家財流本

等之至之予連下海多之

附濤之船者場亦為物之勿論

誰人之於也他似之亦也遠

中男者及又之他似之者濤之也

致及成望之信也濤之船者

之也出判亦出之人數外

目録之事

一 武目石積とよき海船合せ
後二の相影

一 武家女主人 毎は是を業(美)
サカ仕きくは勿海刀とよき
もの口付き馬を業法(美)

一 辻子と家儀に好むと而(醫)即(上)
カ人業と用ひ能く看病と相
通ひ毎酒酔亦乃詠(部)店(美)の
る(美)美致(女)抱(歩)程(時)もの
其(老)の(立)所(と)中(在)子(と)身(の)業
と(紅)の(お)渡(の)旅(人)と(美)の(相)業(と)

番人付並其志所轉く雜物等
貯糞長人百姓之害相改帳面
記之於糞者人記不盡海邊に
多居と傳へし山母堂なる其
外何と云ふ毎先日音人例に
よ又ハ瀟死の者因ある也

雪中糞風之助人助
出之事

附病者にも
きくは若押の宿借申の
よしは去野糞長人百姓之害
格人之趣と申す所睡ぬの

以之... 運...

一盜賊惡黨之者多之良以...

之隣心村... 搦捕...

年之既刻... 唐志...

是又堂之... 山林... 隱患...

為者者之... 肝葉村...

相誘之... 搦捕... 搦...

難計之... 且... 巡...

落者之... 意度...

後日... 相知... 曲事...

一德國... 更易... 核人...

宿致... 為... 加...

極人檢録在外探宥之事
其親類知者亦用伺之好
越以表心者其致以之亦人地一為
相知行其去之相以事之

附家社人神自在物人若若
替女座以神子死之其乞食

等其外錄多類其味

いしは乱れたるもの一紙に宥も貸

申す事ある常と堅下付事

一沙粒無他領者沙領内は錢
悪のりしし一書紙に立海居は像
相知いふと一書紙に捕手若老邊

石中後亦ハ中出た馬と信傳ハシ
是又西の口より其場西の
子連の捕と名乞又後亦ハ出
の信傳者急事

一獵師鉄炮又減鉄炮渡並蘇
鉄炮の信傳並尤人信打是

〜の〜

附獵師ハ亦ハ致致教生獵師

若鶴亦ハ美早連テ中出

一往還ハ亦ハ又ハ苗村去喧嘩
口論出亦ハ連肝焚長人自姓
其書ハ判テ有負死人亦ハ

其抄子押巻の注を以て其抄の
儀程の注を以て其抄の注を以て
之を以て其抄の注を以て

附他可なり其抄の注を以て
之を以て其抄の注を以て

一新規の寺社志の及中規の古記

之を以て再建の儀程の注を以て
塚石塊就石塔の類を以て田畑野山道
路の端（新規）一切之を以て其抄の注を以て
其抄の注を以て其抄の注を以て
其抄の注を以て其抄の注を以て
其抄の注を以て其抄の注を以て

為り、乃、サ、釋、筋、抄、も、い、役、可、入、
申、出、の、情、多、為、也、の、

附、新、紀、の、系、統、亦、不、の、元、之、佛、
神、再、性、每、他、亦、一、當、分、相、移、
開、帳、仕、儀、も、い、の、前、方、の、注、
他、亦、り、神、樂、と、送、來、也、

不、の、傳、元、村、中、の、階、も、亦、
考、並、事、

一、酒、屋、株、の、儀、サ、新、酒、屋、
傳、也、の、

附、以、才、惣、高、人、の、儀、先、年、相、改、
梅、尔、札、抄、渡、並、の、形、又、當、家、

嘉慶元年改戶籍人
姓(高賣業祈書載)所
濟(和撥)高賣(字)用(之)9

一田畑水(意)地起(有)并(新)海
田畑(有)之(以)事(速)下(出)一(隱)至
銀(有)持(取)去(奉)人(一)及(戶)貯

美(出)人(有)姓(之)人(世)之(力)也(之)9
是(之)能(助)地(塘)之(也)也(以)埋
或(之)插(中)乃(多)事(了)

附(每)度(及)造(之)水(稻)之(主)材(積)貯
之(之)橋(本)也(思)也(亦)有(之)也(一)早(速)
造(之)之(中)以(注)之(水)之(海)之(再)耕

他道と切せしめ申方ありて
新なる所あり付り方獨り

一入を燈の面持しるも葉

本根を以て掘りて方ありて

備とて儀ありて傍山林を

勿論也といふ悔忌燈火除夜

田畑の山麓を掘山林(苗木
と挿す)の申事

附山中の焼畑仕方(木格

ありて外燈火けし儀ありて傍

方焼畑火のれ山林山林

焼入りて掘りて方ありて

寺高相防下中事

一海道脇田畑痛中万補以乃無
為其田畑以道付中万有
物不及中化物了以合世中物
仕以馬門通以名了口取付
流中事

一田畑屋敷山登獵場松并

用有龜門付松年論致以
水論再論而刀根差幾書力亦
不特出不依何のり為換者若
者之其科存人下三重事
附酒池并海家事以多中事

ある落して石付世に其
場はより仕来通得るお
或はあふ段の火堀の
法と水落江と又ま築
立の事

一堤川除伏樋掛樋惣用水

場西の又志流中溝水の時
番と付並るる水と
村中おとす。園と名を肝
外無く人見と山石の時
修復田畑損毛を
附堤川除其外

工役し人足技持当座割
以銘判紙行美文之取
並以惣之る姓之仲名及合勘
定仕方あり

一 菊之儀又、中人台の者人鼻
寄合名村方用、酒者一切給

申す方以惣と少くも費
サ之儀の仕事

附及人百姓共、惣一切給申
急、日定名出持飯給、
申以贈給、申不付儀志
所限、申付

一、市村契用色物像形剪長
今百姓人從道論議入為契
用多無極然入用度
帳面記無中與志長人百姓互
去相改致割賦想百姓未敢致
軍書不用帳面活說為部冊完

相認色冊連得正之指
去冊肝葉去亦一為色終矣
主務之致於外為帳仕立書
之立刻色以成仕百市事
附行前為古入用銀解本其
見庫下書之其代友為家

外一錢もふつ出さず得入申
清の出傷中ひつゝも能く申出
るゝ又の申入申致難法者
有こゝ急度下申付く

一他取立申出制禁こゝも申
授子細ありて、主役申出下清老湯

惣の他取立儀に申付申出申
若朝申立他取立出後目相
知し若下為曲事く

一持来より田畑子孫の力に成ら

我々も心ゆくかたに生かす人あ
高き名も世にふくむ事業通
大庄屋文(相屋)取水帳田圃共
人お改戸給ふ言百姓の惣領人
譲りて或は依存生し内所長人
百姓の証加判の致す事なり

一 勸を能くあやむり自力欲せず
まの世の歎一切力仕りあは
是又熱女密ふる事なり
附担多踊とあひ式、津浦現三
味縁洲落木石お舞く日書
ふり致す心持具よりき儀

おまゝに急度下中付の

一百姓に似合風俗を被し長服を

と帯し之を耕他は仕大海陸程

悪く相い仕切取之宜き有る

多敷を中出有し是又新規省

村一百姓も之を急度と程有る

出取の如く合流恒為有るに據之

といふ物百姓相違と上清人

宛め定りも相改中出有る

清くし毎當村出生と有るも

他國へ以て教歴由者之

同あり

湖当村之内或云云或云云
又云方常清与伯居難其者
有云云云云云云云云云云
子細中云云云云云云云
有云云云云云云云云云
一切云云云云云云云

一人清之依据云云云云云
多程云云云云云云云云
野栗云云云云云云云云
清云云云云云云云云
一店借地借每浪人亦云云云
一切云云云云云云云云

恒居之浪人ありて其年二十三年を以て
一水帳角内事ありて其年及子ありて
ト度申申一乃姓は名ら^の次第は名

一清用之儀有村建之福住
夜に子限り事速送居て申ひあり

一平之侍者之為故度事

一人改直事ありて村志村中

中合大切お書て申し身有并

女以色尺と外怪ありて人當

以多相改て申事

附口留事ありて村志之夜

石泥能為志人ありり
中合留魚下下出想の他能入
山越水者具留田今出書而村
不浪搦捕下下出沙屋漢の
被しく多又間道東物先車
等流の志と急度下中付く

一火と元あり入と志大切仕當村中
中人合番下と之書人と云々
長又心就と出達負米ありて因
村中者替く心就書仕惣と
風烈者及長入念行書長人百姓
相中とる人自常と用心大切

仕ら然火のり者も其の旨いと云
当村の者ハ不及中隣に其志を
早連火消るるを特馳付精と
申す消之を以て能弟一二團之
若焼失米^{たま}らるるに銀の中
為毎納又ハ益織と云は損先
一

分去村中丁一毎納の

附居宅ハ勿論少座ホ

火のり者ハ丁泊事

一百姓あり以集り少事貢米金
銀納者其代貯美田此ハ事記
納主ハ字取ハ其重ハ古留此ハ

平、刺、押、切、了、山、首、姓、之、渡、
並、後、日、之、出、入、之、務、之、事、了

一、附、納、米、之、高、石、及、行、賣、升、石

之、云、粗、糠、小、米、粘、之、付、等

之、粘、米、粘、大、之、納、升、中、札

村、名、納、之、名、成、名、書、升、石

了、事、了

一、郷、統、沙、収、納、之、物、林、由、而、渡

等、之、粘、米、粘、了、之、粘、米

前、切、了、之、付、納、米、甚、甘、米、粘

表、粘、之、粘、米、粘、之、粘、米、粘

一、心、就、(少、事、貢、米、之、粘、米、粘、物)

納の爲に納を差代りて所濟の志
を就て所貯を差代りて百姓を救
相封を打ては、さき以味は、さき
を縁有り、い子連て、さき

一 少年負米收納を、さき所米
大臣とも、さき穀物、さき取、さきし、さき私、さき

一 夢の所濟、さき年、さき百姓、さき有、さきの、さき
も、さき此、さき達、さき交、さき每、さき法、さき及、さき報、さきと、さき村、さき中、
より、さき安、さき納、さきの、さき中、さき付、さきく、さき糸、さき前、さきさ、さき
相、さき牛、さきに、さき仲、さき百、さき番、さきを、さき味、さき取、さき均、さきを、さき
あの、さき柱、さきら、さきい、さきて、さき中、さき出、さきる、さき

一 少年負米、さき川、さき下、さきに、さき儀、さきを、さき免、さき責、さき

格別の外より志より表
軍中において遂に味、事、船
中難用并涉藏納運の中
法大用委用帳面記入用海
少懸く扱下仕事

一百姓衣服儀男女共布本

綿より表襟袖口帯も絹類
より用面より簪笠等者事

一大組以面より丸袖本係人合
務手紙事若く用事若く

附襟装束にも本係る所事若く

一垢入解り及若祝儀毎佛より分派

一 有り煙く²³仕大勢集大徳上人
〜以勿悔新理²⁴き²⁵儀一切
仕り²⁶あ²⁷ぬ²⁸に²⁹た³⁰葵³¹禮³²儀³³法³⁴事³⁵
分³⁶限³⁷に³⁸相³⁹互⁴⁰に⁴¹儀⁴²仕⁴³り⁴⁴く⁴⁵儀⁴⁶事⁴⁷
相⁴⁸背⁴⁹に⁵⁰儀⁵¹仕⁵²り⁵³く⁵⁴志⁵⁵に⁵⁶出⁵⁷意⁵⁸度⁵⁹
の⁶⁰中⁶¹に⁶²付⁶³事⁶⁴)

附目之⁶⁵以⁶⁶儀⁶⁷儀⁶⁸想⁶⁹と⁷⁰志⁷¹に⁷²き⁷³
儀⁷⁴望⁷⁵に⁷⁶儀⁷⁷儀⁷⁸儀⁷⁹儀⁸⁰儀⁸¹儀⁸²儀⁸³儀⁸⁴儀⁸⁵儀⁸⁶儀⁸⁷儀⁸⁸儀⁸⁹儀⁹⁰儀⁹¹儀⁹²儀⁹³儀⁹⁴儀⁹⁵儀⁹⁶儀⁹⁷儀⁹⁸儀⁹⁹儀¹⁰⁰
儀¹⁰¹儀¹⁰²儀¹⁰³儀¹⁰⁴儀¹⁰⁵儀¹⁰⁶儀¹⁰⁷儀¹⁰⁸儀¹⁰⁹儀¹¹⁰儀¹¹¹儀¹¹²儀¹¹³儀¹¹⁴儀¹¹⁵儀¹¹⁶儀¹¹⁷儀¹¹⁸儀¹¹⁹儀¹²⁰
一 惣¹²¹に¹²²家¹²³業¹²⁴不¹²⁵精¹²⁶に¹²⁷儀¹²⁸儀¹²⁹儀¹³⁰儀¹³¹儀¹³²儀¹³³儀¹³⁴儀¹³⁵儀¹³⁶儀¹³⁷儀¹³⁸儀¹³⁹儀¹⁴⁰儀¹⁴¹儀¹⁴²儀¹⁴³儀¹⁴⁴儀¹⁴⁵儀¹⁴⁶儀¹⁴⁷儀¹⁴⁸儀¹⁴⁹儀¹⁵⁰
仕¹⁵¹者¹⁵²に¹⁵³儀¹⁵⁴儀¹⁵⁵儀¹⁵⁶儀¹⁵⁷儀¹⁵⁸儀¹⁵⁹儀¹⁶⁰儀¹⁶¹儀¹⁶²儀¹⁶³儀¹⁶⁴儀¹⁶⁵儀¹⁶⁶儀¹⁶⁷儀¹⁶⁸儀¹⁶⁹儀¹⁷⁰儀¹⁷¹儀¹⁷²儀¹⁷³儀¹⁷⁴儀¹⁷⁵儀¹⁷⁶儀¹⁷⁷儀¹⁷⁸儀¹⁷⁹儀¹⁸⁰
中¹⁸¹に¹⁸²儀¹⁸³儀¹⁸⁴儀¹⁸⁵儀¹⁸⁶儀¹⁸⁷儀¹⁸⁸儀¹⁸⁹儀¹⁹⁰儀¹⁹¹儀¹⁹²儀¹⁹³儀¹⁹⁴儀¹⁹⁵儀¹⁹⁶儀¹⁹⁷儀¹⁹⁸儀¹⁹⁹儀²⁰⁰

老人或ハ将力とん言姓相炊耕作
来有テ去親親縁志とん方方中
友人江村中相牛助合とん子英
被上納り程ハ仕ハ惣ハ村役
相勉とんハものハ心志とんと書とんし私欲
毎依指鼻願負ふ仕著ク村中

心と付身とんト少身志とんと恵とんト然
そハ心とん又ハ心とんハ心とんハ心とんハ心とん
肝英とんハ心とん英とんハ心とん英とんハ心とん
面理也と致とんハ心とんハ心とんハ心とん
中論中論とんハ心とんハ心とんハ心とん
省とんハ心とんハ心とんハ心とん

工を重しし法は度々書留る
村中少あり志に重しき常
に付の事

一休日之儀正月元日の七日は因習
より女日と日数十二日七月十日は
因女日と日数七日は相体

附正月七月古休日亦年月
四日休日外相体は多端に
勿論書留る月宜月より
年月通四日と日数計
相体事
一月休日之儀正月七月亦

朔日八日十者廿一日二月
相体の事

附者定体日外二月首五者

者七月首九月九日相体

申以是又六月朔日相日

志留体日内込の事

一多中義他多者二日結者縁日

一日田植体一日田植は出送一日

都合六日相体了り

一働日内多義粉体一日田度

家内致了り事

附者相定以体日外日

相体、儀力致中、方多、以、大、中
之、百姓、有、言、每、子、弟、名、位、は、あ
ら、ま、り、不、相、背、強、者、あ、ら、ま、り、
若、相、背、あ、ら、ま、り、ま、り、
並、脇、より、相、知、り、苗、人、の、勿
論、約、志、長、人、百姓、中、人、
と

一、為、越、度、事

一、心、身、色、心、人、每、名、位、志、を、
常、物、禮、物、一、切、位、を、
押、賣、行、う、ら、ま、り、
以、去、早、く、
後、日、相、知、り、
肝、葉、長、人、
今

百姓の爲越度事

一 諸役人中相出るる代

儀ありとお定むる通ふお増中

ありあは物らと在入るに増中

一 計一菜子海に贈るに是

登る品調並村入用(割魚)

村役人より越度に毎用

人より集並百姓課費中

百有友事

右三條に堅く相守る事

事等打ちあはし志る事

此帳毎度正月七月一々事

二、度及宛村中大小之百姓出
等之之等人自得与为續字等
此意致令息存世之程之
人名也

文政元年丁寅九月

在町一申渡書

去九月中丁寅出以在町戶籍
人別情与殊案本
御城中續心寺地寺社の事給
名子之者向町之町人延入
相濟以信之程申渡書也

沙越之志只とと通板毒者
不云好をくふ法より沙法令
沙掃も不仍在是又沙法度
背心得毒者有く以ても相
以味難及追板欠る路水之海
の隠居らも改むる所の在

博奕盜賊之悪業他領に
少領由入 古石等も事頭以像
サ之く不お知沙取中細細
いふと悪くも致しし以るの
穿鑿金も種り在り月戸籍人
を教諭意に改悪者徘徊も難致

事_二相_一成_レ、_レ六_レ古_レ婦_一官_一在_レ也
志_一安_レ情_一、_レ儀_一之_レ至_レ各_レ藏
業_一之_レ勵_一、_レ父_一母_一妻_一子_一を_レ安_レく_レ哉
以_レ糧_一の
御_一仁_一惠_一、_レ之_レ被_レ信_一出_レる_レの_レ以_レ糸
大_一切_一越_一意_一と_レ在_レ所_一、_レ何_レ人_一能_レく

相_一心_一得_一其_一村_一、_レ所_一共_一人_一恒_一泥_一而_一也
改_一め_一逢_一、_レ情_一面_一仕_一立_一て_レ申_一以_レ惣_一と
涉_一法_一度_一、_レ信_一出_レる_レ年_一と_レ終_一
以_レ若_一急_一情_一、_レ只_一情_一面_一也
こ_一の_一内_一美_一相_一違_一、_レし_一以_レ打_一角
涉_一越_一意_一、_レ何_レ人_一能_レく

第一在所店便之太店屋油切
相心所町役人村役人共々多々
此等悔忘中渡次村役人所役太
主振之五人組以中官五人組合
者親ことと厚あつくし善悪並
一家内心持おそれ少越之り届

以上様在所役人共々通之り申渡以
町六月

郷村へ申論書
戸籍他人別あり
御城下町とつけし村あり

けしきまへ 沙紀の黒
沙紀中一人とて人なり
あはれなきはなまの世に
ぬ身さかきくよめ人なり
しちくはまきくあまのうき
くさ 沙紀の黒

るまきくも 沙紀
沙紀あそびて 在りまきく
一人とてあまの世に
はのまきに 精をむ
老る親を
春の幼き子とて
人なり
ふきく 思ふの程なり

五、新く心づくべき事、よの

一、事久しく侍ふる家、或は、家内の志に

親類も廣く、仕の男、女をも、侍

あ、たゞ、家を持まこ、い、隔り、する、里

移り、親戚の遠き、あ、ち、隣りの、助

と、頼む、し、られ、い、他、地、内の、の、り、と

一、侍、付、に、れ、い、事、久、く、侍、り、か、も、遠、く、い、

他、と、頼、む、し、ま、る、も、あ、い、と、ち、る、も、な、り、

い、富、田、の、り、老、少、い、り、に、は、い、

ま、し、る、ま、は、後、の、の、り、と、あ、り、毎、日、

朝、夕、い、地、内、を、親、し、と、ま、し、よ、を、え、

の、心、を、中、合、と、し、し、地、内、の、時、を、

かき他の以乃力たるし終に梅ひ
うは江極ふ長人の力たるし一村
睦しく治り孤獨の老も朝夕を如
すく送りし肝葉并流後の精働
生へしかれ村らに應養をく丸
一照つき早魁の葉村人かと

合世あとしき今しあはけと
持しけつと精とあしあまらるる働
し他の苗れ枯るととくまんとと細ひ
ま達れ持ふと他ましは世其村の
守るれ結雪の神乃いそる無と終
あしむおのつと仕合のよとぬ事

ありて又ハ他の徳儀とて色色
見るとその所詮は心なきをせ
沙智とて其家とて力なきを
一とて其法ののりて其精働す
一とて其心とて其徳は何れも
あやむらう好む又ハ我を提

奉をその致し善とて其徳は
と好むをき親孝の事の
一とて其徳の徳の徳と其徳の
徳を又初とてし
一とて其徳を夕に好む人
精働たるも老る親幼なき子

少くもやがふあめりまらへて給夕に
まききあへけは行末流役長人
五人程内は皆沙恵の浅川名所に
十病のうらまへて身足の弱くは老を男
縄もまひ甚と織草鞋類のそ
女古きうとうとあり本所と織りの
丸きさくしきじは食草と織り
つし市町をく病は役あり
村里ハ村役人の老沙ひま
大庄屋法事のことせし
一家業職業の怠り困窮せし
年あく毎もさき女子共を飯

奉らば出し苗座の凌をよするハ
心根ありき下りのひきく思つたる心
ふ便の事は一且極ひなき世
女とありきあひよしと終方の候
とまりんらよのえ通へにさへ付
朱因たりこれ新正入田袖と難き

はれはなうもあらしとんれは
出すハ幸き親れの志とどめ候と
私うらみのと知へし但ふて免しき
もれとくやまかひ持てるもあさ
又ハ夫の世とあし女事一の身
はれり舅姑の老ふかとまぬひの便

飯茶をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい
をさくし出さぬ。じいじい

一 肝煎み湯飯の物と一村と

身人少経取り合せ古
少あのをととが葉城系と勸進
充ととと助けぬ物と情と古
ち常と経材ととり無りい名あ
美と中とじ物と精働の古
辨出し

常条とと相傳へ紐肉の心はとある
よりの被傳出の条多とある紐人あ段
のこいとく六村と銘有る礼傳湯迄
等と初大少百姓の呑小あゝる
きうせ常とて申海志也
文政二年卯六月

店用為と因通下
佐藤金七

西町嘉永四年亥年
買主文義十月
明次二己年二月

明次二己年二月
金七

